

ないよう、市民が参加する形で今あるものを見直しをかけたいただき、市に対しての満足度が上がるようにしてもらいたい。

A. 子育て支援センター、こども計画など、みんなつながっているものですので、今個別にあるもので満足せずに、ブラッシュアップし、それぞれが共有・周知できるように、HPの使い方を少し考えながら皆さんに行き届くようにしていきたいと考えております。

## テーマ2 防災・減災について

### 県の検証会議の結果について

Q. 県の改修工事は完成後、八千代、大芝では内水氾濫のリスクが残ると指摘されたが、市はコンサルティング会社に委託したのか。またこれからどう進んでいくのか伺いたい。

A. 県の検証会議を受けて市としての業務委託は、先日発注した段階であります。これからコンサルティング会社の方で検証会議の結果、あとはこれまでの内水の状況を総合的に勘案しまして、今後本市が行うべき内水対策のメ

ニューを出してくるというところで、もう少し時間がかかると考えております。

### 降雨量等のシミュレーションについて

Q. 茂原で1時間100mm降るといった場合に、どの位の水量が出て一宮川で本当に吐けるのか、また、茂原で一番溜まる場所から直接海にバイパスのような形で水路を作るシミュレーションをやったことがあるか伺いたい。

A. 県の検証会議では、令和元年と令和5年の水害時の降水量でシミュレーションしており、今の河川整備計画で行っている令和11年までの上流部も含めた工事が全て完了した段階のシミュレーションの結果が出ています。令和元年と令和5年の降水量は降っている地域が違いますので、一概には言えませんが、河川整備後には、河川からは越水しないというデータは出ています。しかし、鶴枝川から越水する可能性はあるというところが分かりましたので、今回県は追加で、緊急で鶴枝川の堤防嵩上げを含めた追加工

を実施するということまでできています。それでもやはり内水氾濫は起きますので、その対策を今業務委託でやっております。これは市がやるべき事業なので早急にやるということですよ。

それとバイパスですが、私は個人的にその発想を持っており、一宮川に全て集約されてしまい、相当な負荷がかかっていきますので、もう一本水路的なものを海に直接流す。これを経済的に試算すると、地上権がない50mの地下で、シールド工法で行った場合、数兆円はかかります。しかし現実的ではないので、この地域ならではの農業用排水も含めたさまざまな部分をつなぎ合わせて、排水するというところの方が経済的にも、恐らく時間的にも良いだろうと考えます。これは大規模な工事となりますので、国の費用で実施できるように、国の方に私から直接申し上げていきたいと考えております。また、県の方とも話しながらプロジェクトチームを通じて進めたいと思います。

### 災害時の生活用水等について

Q. 災害があった場合、どうしても必要なものは水だと思うが、生活用水を確保できるようなシステムの構築などの対策を考えていただければと思うが意見を伺いたい。

A. 飲料水に関しては、災害協定等によりかなり備蓄は進んでおります。また給水車の方も、しっかりとすぐ出れるようにはなっておりますが、長期化した場合の生活用水というのは重要だと思っております。大きな課題だと考えております。今注目されている井戸を災害井戸として転換できるようにするのが本市は少し弱いかなと思います。電動でポ

今回開催された「市長と話し合う会」の記録は、2月下旬ごろから、市公式ウェブサイトで公開します。



また、市役所1階情報公開コーナーや本納支所、図書館（3月21日～）でも閲覧できます。

なお、公開する記録は、個人情報等への配慮により、一部修正していただきますのでご了承ください。



▲給水車

ンプアップして使うと思うのですが、電気が駄目になった時に手動に切り替えられる設備が整っている井戸なのかというところ、まだまだ進んでいないと思いますので、大きな課題として進めてまいります。分であると考えております。